

# 香取遺産



▲星宮神社



▲獅子頭

## vol.186 とうし 千葉東氏ゆかりの獅子頭

千葉一族中興の祖といわれる千葉常胤（つねたね）の六男胤頼（むねより）が東氏を名乗ったことで始まった千葉東氏、市内岡飯田地区の森山城跡はその居城の一つとされます。承久の乱（らん）（1221年）の後、東氏は美濃国郡上郡山田庄（みののくにぐさのやまのぢやう）（現岐阜県郡上市）に移り住みますが、森山城跡のほど近く、下飯田原宿地区の星宮（ほしのみや）（妙見）神社には、東氏ゆかりの獅子頭が伝えられています。

星宮神社祭礼で奉納される獅子舞の獅子頭で、いつ頃製作されたものかは不明です。東氏の郡上移住に伴い、守護神（みまもり）の妙見菩薩（みょうけんぼさつ）を彼の地に勧請し明建神社が建立されましたが、その際に雄獅子を持つて行ったとの言い伝えがあります。星宮神社の獅子は雌獅子で、明建神社のそれとは雌雄一対といわれます。

下飯田原宿地区では、毎年1月第3日曜日（本来は1月20日）に星宮神社で祭礼が行われ、獅子舞が奉納されます。昭和50年代頃に一時奉納を中断した時期もあったようでしたが、その後復活し現在に至っています。

祭礼当日は、朝から獅子が地区内の各戸を回り悪魔払いを行った後、星宮神社に戻り祭礼を執行し、獅子舞を奉納します。次いで、当番引継ぎ行事が行われます。かつては、その夜に受番（うけばん）（新当番）宅に行き幕を張って、本格的に獅子舞を奉納していたようですが、現在それは行われていません。演目は、鈴の舞、幣束舞（へいそくまい）、剣の舞（けんまい）、筑波の舞（筑波山）などが継承されていて、他におかめ・ひよっとこなどの余興芸も行われます。残念ながら、諸般の事情により昨年から奉納は中断されています。

下飯田原宿地区と郡上市では、このような東氏のつながりから、さまざまな事業を通じて相互に往来するなど交流が続けられています。